

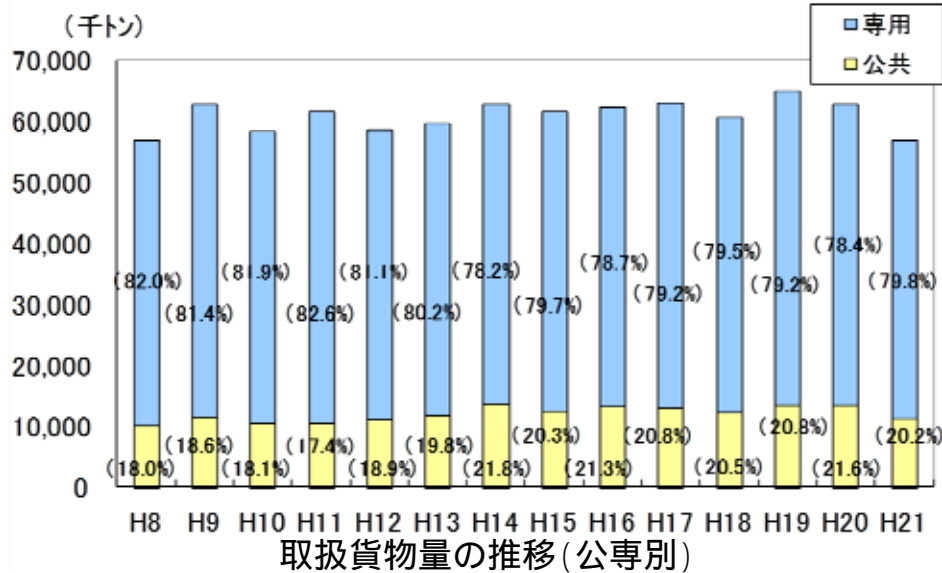
四日市港 港湾計画 改訂

平成23年4月14日
交通政策審議会
第41回港湾分科会
資料 3-1



四日市港の概要

- ・四日市港の取り扱い貨物は、過去10ヵ年60,000千トン前後のほぼ横ばいで推移。
- ・取扱貨物量のうち、公共貨物は20%前後、専用は80%前後。
- ・臨海部には石油化学コンビナートを擁しており、輸入貨物では原油、LNG、移出・移入貨物では石油製品の取扱が多い。
- ・四日市港背後には自動車関連産業も立地しており、輸出貨物の26%は完成自動車。



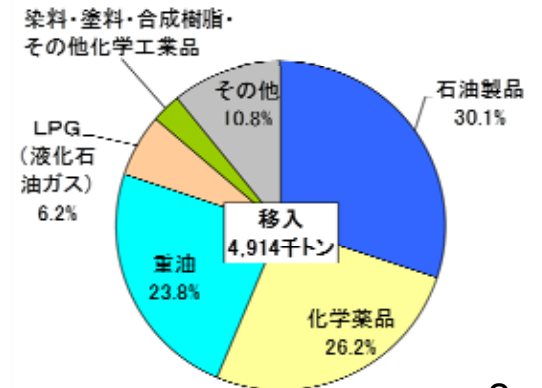
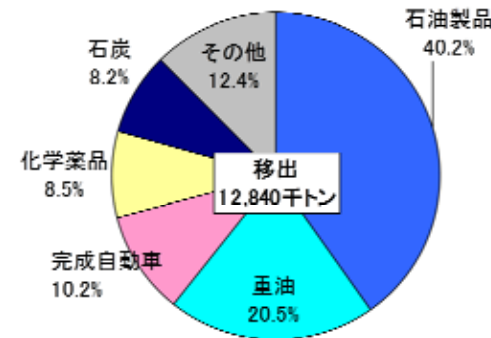
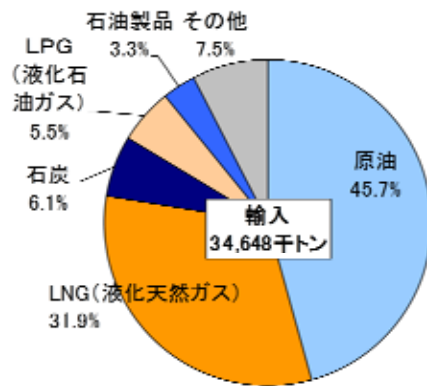
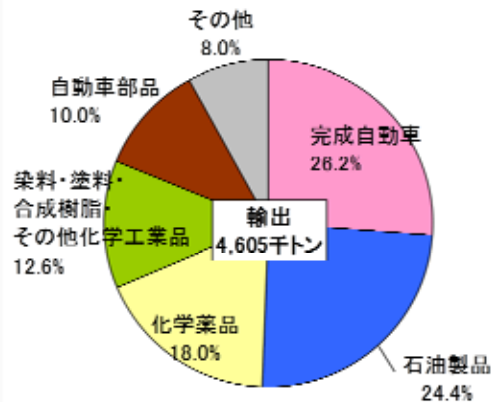
後背地

企業名	業種
(株)東芝	電気
シャープ(株)	電気
日東電工(株)	電気
本田技研工業(株)	輸送
パナソニック電工(株)	電気
JFEエンジニアリング(株)	機械



臨海部(四日市コンビナート)

企業名	業種
コスモ石油(株)	化学
昭和四日市石油(株)	化学
東ソー(株)	化学
三菱化学(株)	化学
中部電力(株)	電力
JSR(株)	化学



平成21年取扱貨物量実績品目別割合(輸移出入別)

四日市港各地区の現状

【霞ヶ浦地区】
外貿コンテナ、石炭等を取扱い、
物流の中核。

【霞ヶ浦地区南埠頭、塩浜地区等】
四日市コンビナートが形成されており、
石油化学関連企業が立地。

【川越地区】
中部電力の火力発電所が立地。

【四日市地区】
四日市港発祥の地であり、現在も
鉄鋼等、企業の原材料等を扱う。

港湾計画の基本方針

既定計画の基本方針 (目標年次:平成20年代前半)

【物流】

外貿コンテナ取扱機能の拡充
外貿コンテナ取扱機能の充実・強化
モーダルシフトの推進、内貿機能の強化
老朽化・陳腐化した港湾施設等の再開発
港湾内の円滑な臨港交通体系

【交流】

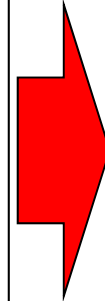
緑地及び親水空間の確保
海洋性レクリエーション機能の充実

【環境】

廃棄物受入れ空間の確保

【安全】

大規模地震対策の強化



今回計画の基本方針 (目標年次:平成30年代前半)

【物流】

産業港湾としての機能の強化
コンテナ貨物の取扱いの集約化
バルク貨物取扱機能の強化
外内貿完成自動車の取扱いの集約化
港湾内の円滑な臨港交通体系

【交流】

緑地等の親水空間の活用

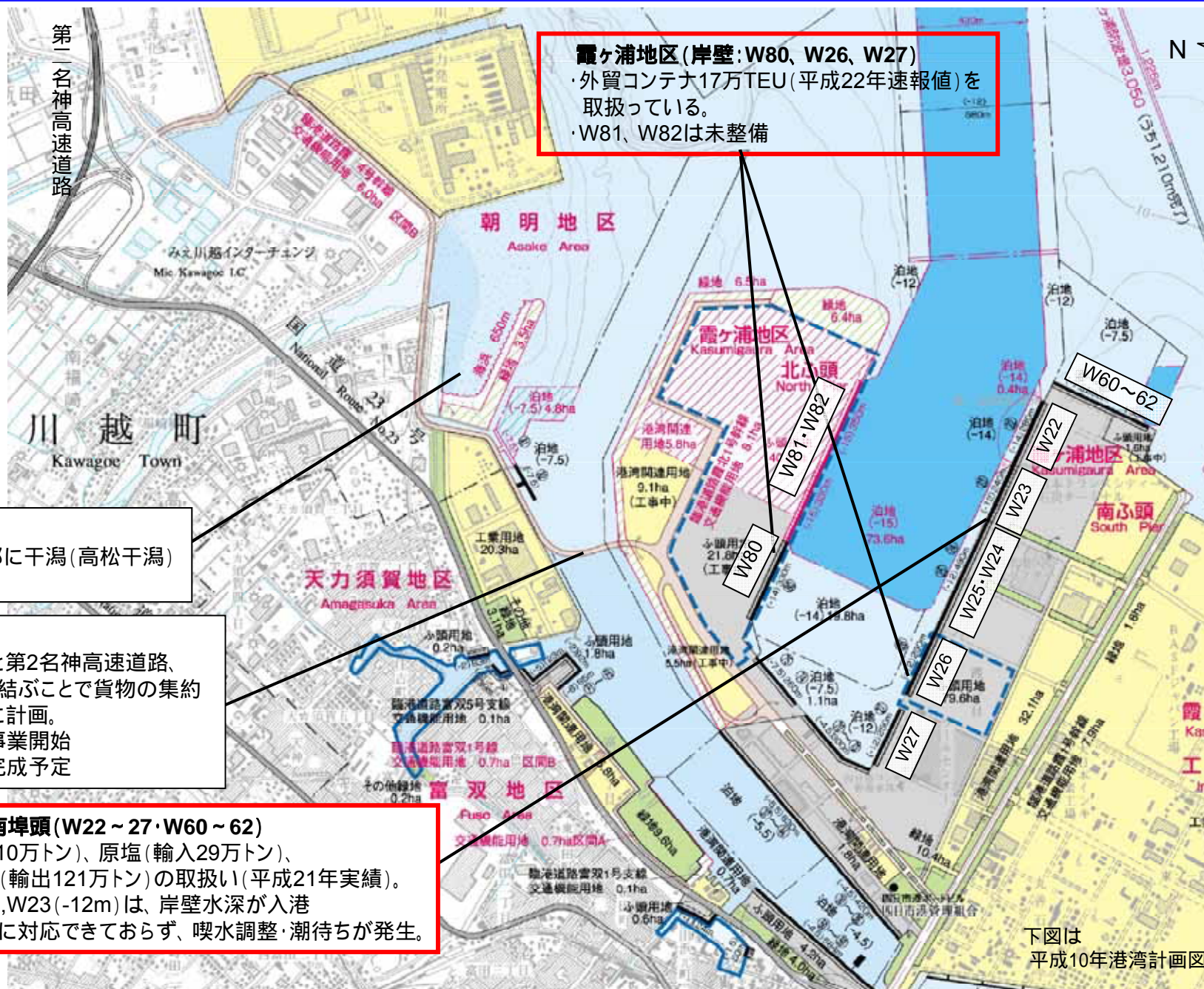
【環境】

干潟等の保全

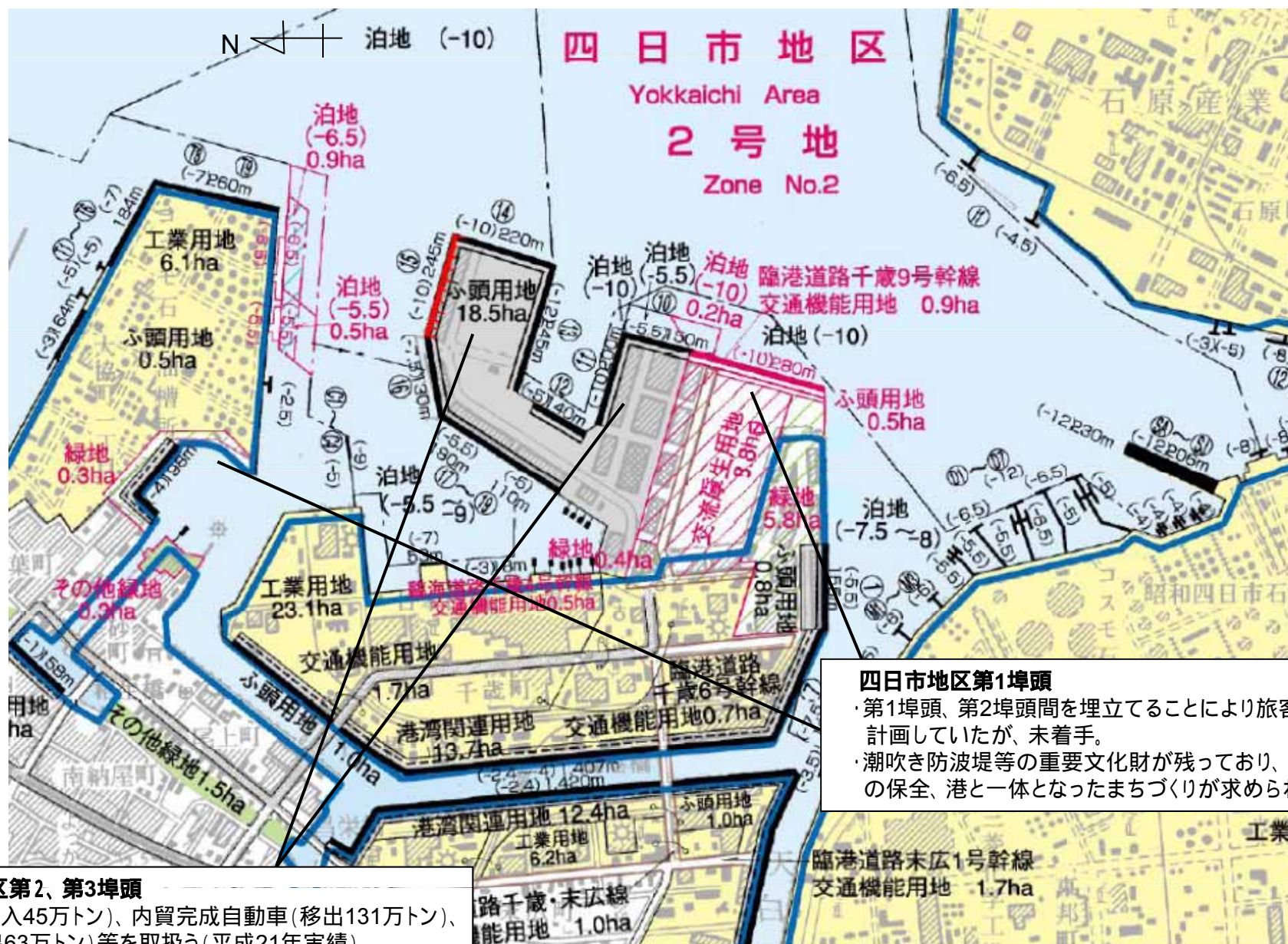
【安全】

大規模地震対策の強化

四日市港の利用状況（霞ヶ浦地区等）



四日市港の利用状況（四日市地区等）



四日市地区第1埠頭

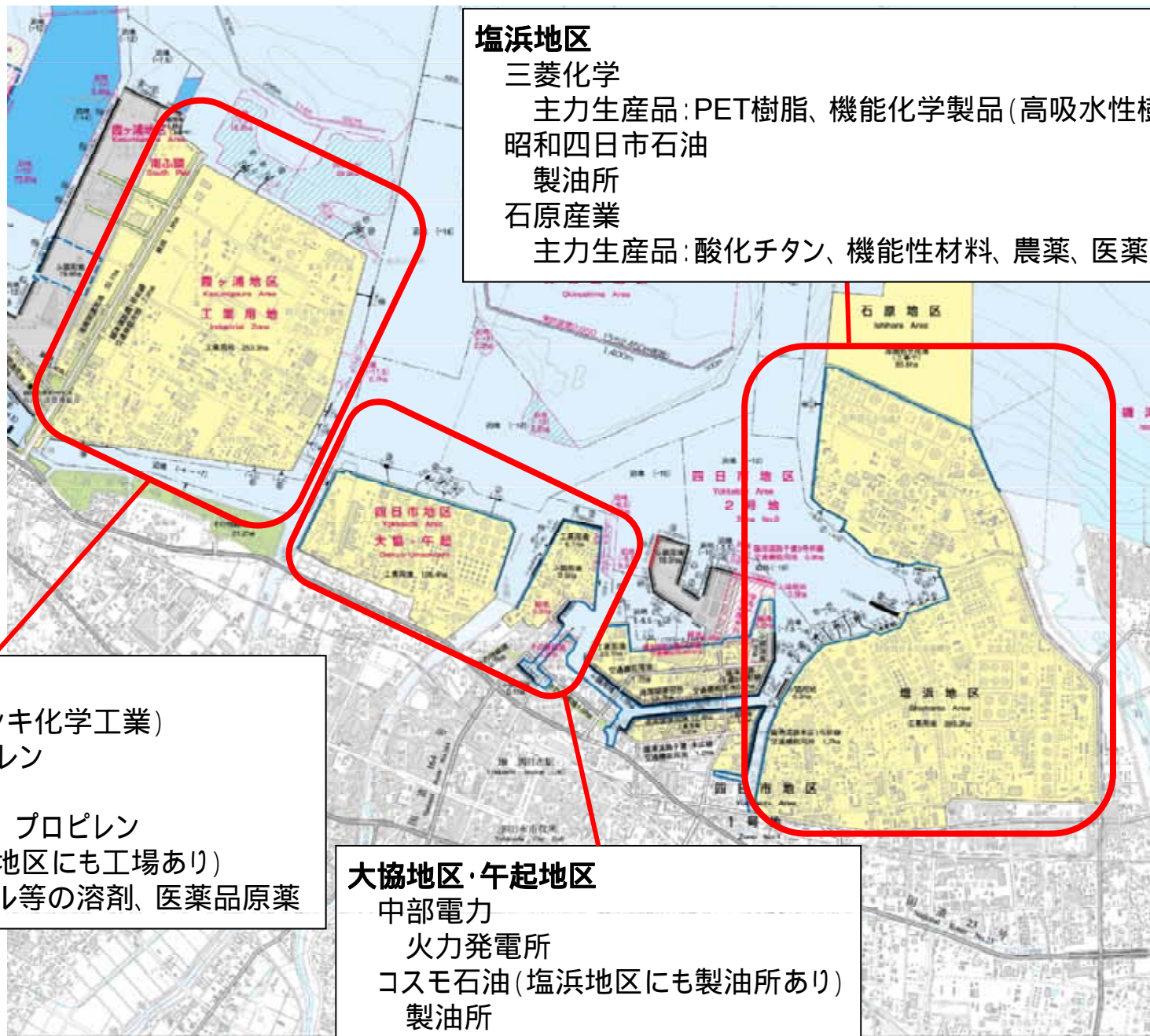
- ・第1埠頭、第2埠頭間を埋立てることにより旅客船埠頭を計画していたが、未着手。
- ・潮吹き防波堤等の重要文化財が残っており、港湾景観の保全、港と一体となったまちづくりが求められている。

四日市地区第2、第3埠頭

- ・米穀類(輸入45万トン)、内貿完成自動車(移出131万トン)、鋼材(移出63万トン)等を取扱う(平成21年実績)。
- ・モータープール面積が狭く、また穀物荷役機械が混在していることが課題。

下図は平成10年港湾計画図

四日市港の立地企業（霞ヶ浦地区、塩浜地区等）



塩浜地区

三菱化学

主力生産品: PET樹脂、機能化学製品(高吸水性樹脂)

昭和四日市石油

製油所

石原産業

主力生産品: 酸化チタン、機能性材料、農薬、医薬

霞ヶ浦地区

DIC(旧社名:大日本インキ化学工業)

主力生産品: ポリスチレン

東ソー

主力生産品: エチレン、プロピレン

協和発酵ケミカル(午起地区にも工場あり)

主力生産品: ブタノール等の溶剤、医薬品原薬

大協地区・午起地区

中部電力

火力発電所

コスモ石油(塩浜地区にも製油所あり)

製油所

四日市港背後における産業の概要

石油化学コンビナートにおける構造転換

三菱化学エチレンプラントの停止(2001年)
四日市コンビナート内にある未利用地の活用



従来の基礎素材産業から付加価値の高い機能化学製品への転換
電機・電子関連産業、液晶産業などといった先端産業との連携

技術集積活用型再生特区の認定(2003年～2005年)
(石油コンビナートレイアウト規則の適正化等)

石油化学コンビナートの維持

四日市港の原油処理能力(2010年)

コスモ石油 12.5万バレル/日

昭和四日市 21.0万バレル/日

合計 33.5万バレル/日(全国シェア:7.4%)

出典:石油連盟HP、コスモ石油等HPより

四日市港のエチレンプラント生産能力(2009年)

東ソー 49万トン/年(全国シェア:6.8%)

出典:「石油化学工業協会HP」より

電子・電気産業の拡大

三重県の製造品出荷額(2008年)

約11兆5千億円(全国9位)

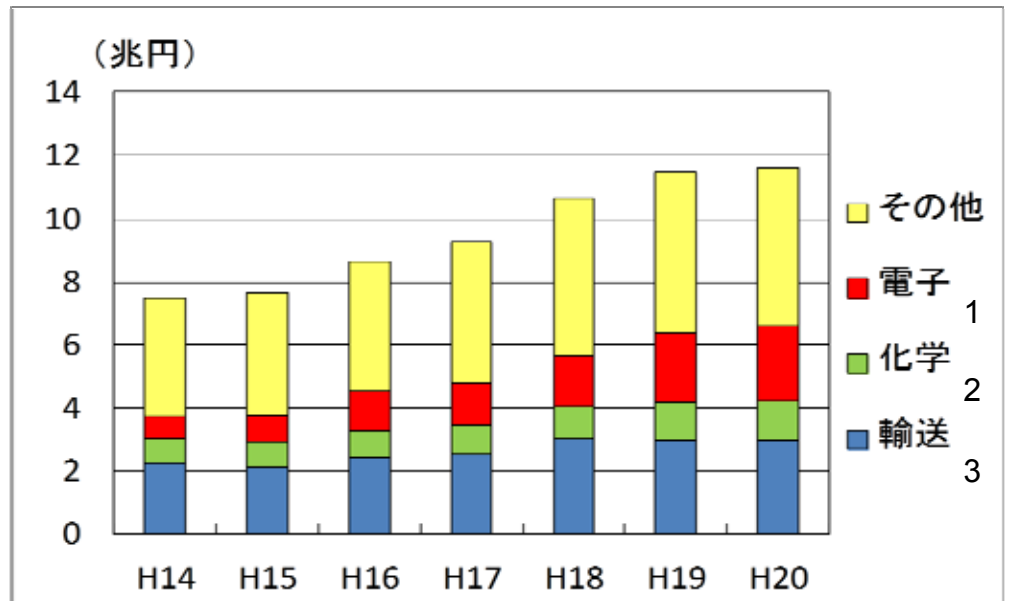
人口1人当たりの製造品出荷額(2008年)

624万円(全国2位)

電子部品・デバイス製造業出荷額(2008年)

2兆4千億円(全国1位、シェア11.5%)

出典:経済産業省「工業統計表」より



三重県の製造品出荷額の推移

- 1 電子部品・デバイス・電子回路製造業
- 2 化学工業
- 3 輸送用機械器具製造業

今回計画の主な内容

朝明地区

- ・干潟の保全のため、「**自然的環境を整備又は保全する区域**」を計画。

石原地区

- ・シンボル緑地(野鳥等が飛来する緑地)を計画。

四日市地区第2・第3埠頭

- ・第2埠頭、第3埠頭で取扱っている内貿完成自動車を霞ヶ浦地区で取扱う。
- ・化学薬品等の取扱いを計画。

四日市地区第1埠頭

- ・旅客船寄港需要の高まりに対応するため、入港する旅客船に対応した岸壁を引き続き計画。
- ・歴史的遺産等の文化財を保存し、次世代に継承するため「**良好な景観を形成する区域**」として計画。

【四日市地区第1・第2埠頭間埋立岸壁
旅客船バス (-10m x 1B -9m x 1B)】

霞ヶ浦地区
→次頁

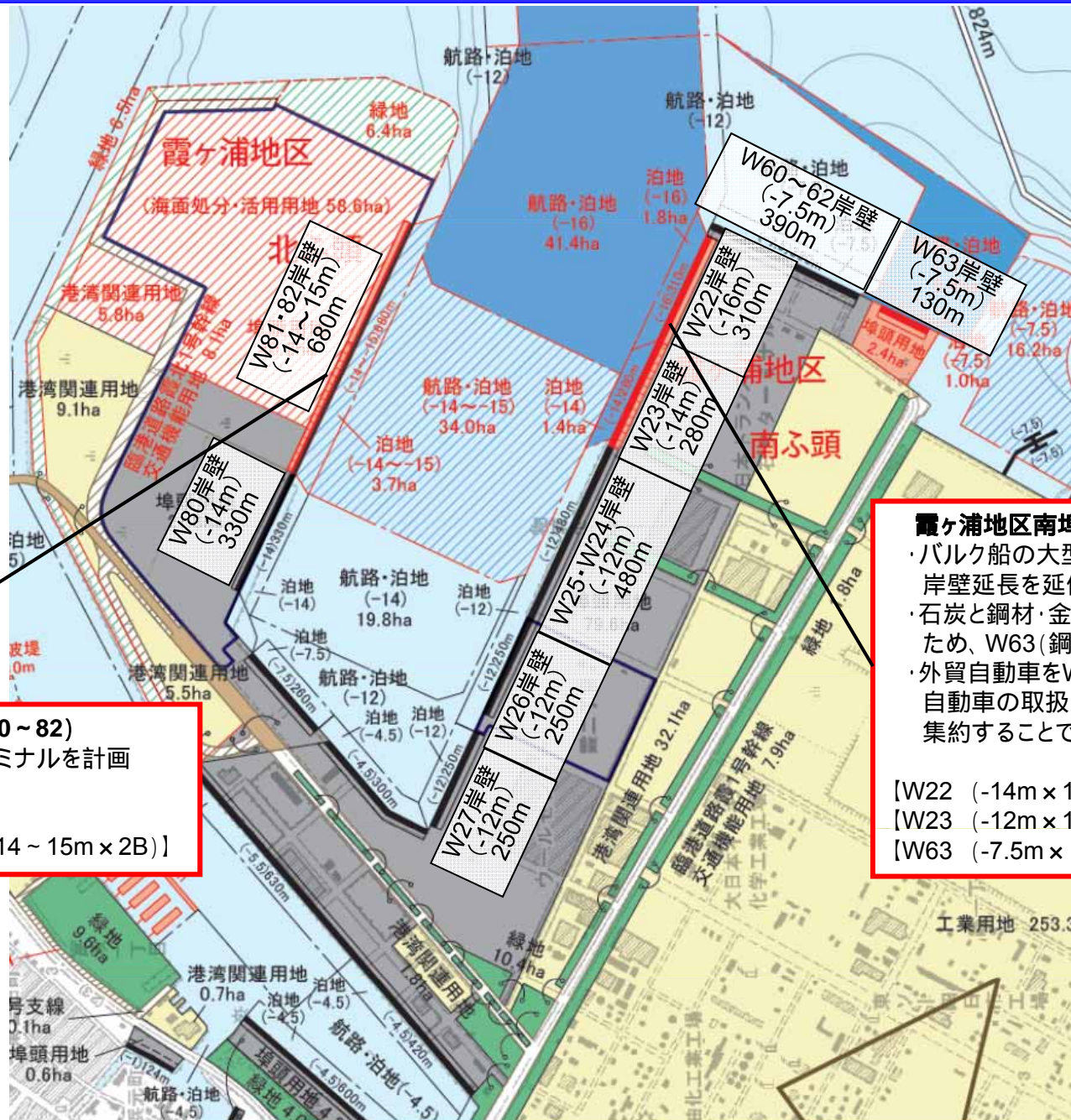
富双地区

- ・プレジャーボート等の集約

臨港道路霞4号線

- ・既定計画から引き続き計画。
- ・四日市港南部域への南進については、将来構想とする。

今回計画の主な内容（霞ヶ浦地区）



霞ヶ浦地区北埠頭(W80～82)
 ・3バースのコンテナターミナルを計画
 (43万TEU)。
 [W81、82(-15m×2B -14～15m×2B)]

霞ヶ浦地区南埠頭(W22～27・W60～W63)
 ・バルク船の大型化に対応し、W22・23を増深、岸壁延長を延伸。これに伴い航路等を増深。
 ・石炭と鋼材・金属くずの取扱いバースを分けるため、W63(鋼材・金属くず)を新設。
 ・外貿自動車を取扱ったととも、内貿自動車の取扱いを四日市地区からW26・27に集約することで、外内貿一体的な取扱いを行う。

[W22 (-14m×1B -16m×1B)]
 [W23 (-12m×1B -14m×1B)]
 [W63 (-7.5m×1B)(新規)]

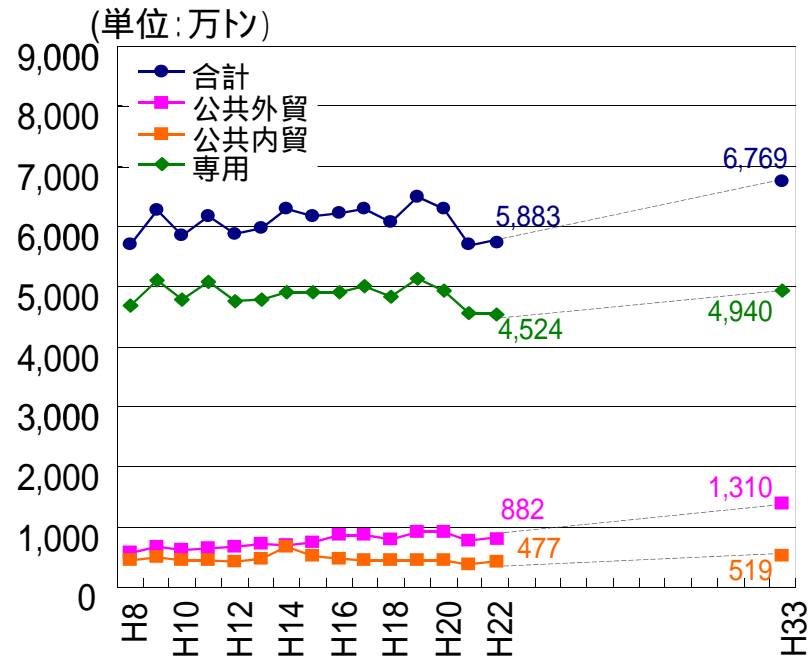
取扱貨物量の見通し

目標年次における貨物量の見通し

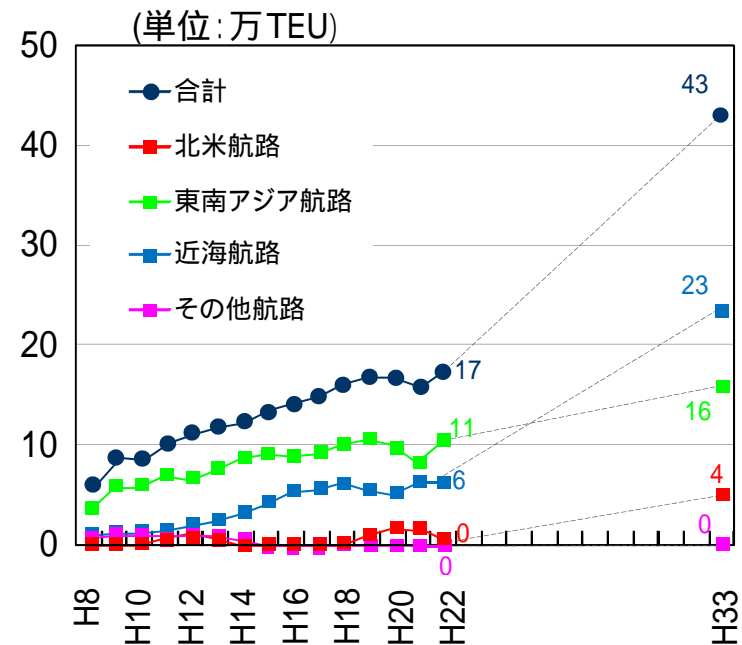
公共貨物：集荷対策によるコンテナ貨物の増加、モーダルシフトによる完成自動車移入量の増加

専用貨物：現状程度の取扱い

	取扱貨物量(計画値) <目標年次:平成20年代前半>		取扱貨物量(実績値) <平成22年(速報値)>		取扱貨物量(計画値) <目標年次:平成30年代前半>	
		うち外貿コンテナ		うち外貿コンテナ		うち外貿コンテナ
公共	2,624万トン	81万TEU	1,359万トン	17万TEU	1,829万トン	43万TEU
専用	5,112万トン	-	4,524万トン	-	4,940万トン	-
合計	7,735万トン	81万TEU	5,883万トン	17万TEU	6,769万トン	43万TEU



四日市港の取扱貨物量の推移(コンテナを含む)
平成22年の取扱貨物量は速報値





外貿コンテナ取扱個数の推移
平成22年の取扱貨物量は速報値

今回計画における外貿コンテナの需要予測

- ・国際コンテナ戦略港湾の選定結果などを踏まえ、今回計画においては、需要予測の前提となる背後圏、対象航路を見直し。
- ・四日市港における集荷方策の実績を踏まえて企業ヒアリング結果を精査し、予測値を算出。

外貿コンテナ需要予測の考え方

	既定計画(平成17年6月 一部変更)	今回計画(平成23年4月 改訂)
計画貨物量	81万TEU(目標年次平成22年)	43万TEU(目標年次平成33年)
対象航路の設定	北米、東南アジア、近海、 <u>欧州地中海</u> 、 <u>豪州・NZ</u>	北米、東南アジア、近海
背後圏の設定	三重県全域と滋賀県、 <u>岐阜県</u> 、 <u>愛知県</u> 、の一部  <p>四日市港背後圏 三重県全域、滋賀県、岐阜県、愛知県の一部</p>	三重県全域及び滋賀県の一部  <p>四日市港背後圏 四日市港背後圏のうち、貨物を見込む企業の位置</p>

四日市港における石炭取扱いの現況

- ・四日市港における石炭の輸入量は約230万トン(平成20年、全国30位)。
- ・四日市港の中部コールセンターでは、輸入した石炭の半分以上を衣浦港へ移出(移出量:全国6位)しており、日本の主要なコールセンター。

主要なコールセンターと石炭の取扱貨物量

港湾名	コールセンター	輸入量(2008年)			移出量(2008年)		
		取扱貨物量(トン)	順位	全国シェア(%)	取扱貨物量(トン)	順位	全国シェア(%)
苫小牧	苫東コールセンター	5,518,362	15	3.0	205,631	11	1.2
室蘭	室蘭コールセンター	2,580,330	27	1.4	25,085	15	0.1
千葉	出光バルクターミナル	4,532,218	19	2.5	640,512	9	3.8
四日市	中部コールセンター	2,304,038	30	1.3	1,260,234	6	7.4
福山	JFEコールセンター	8,708,675	2	4.8	2,176,212	3	12.8
徳山下松	下松石炭中継基地	7,133,965	7	3.9	2,940,078	2	17.3
宇部	宇部興産沖の山コールセンター	5,926,654	11	3.3	3,255,364	1	19.1
新居浜	新居浜コールセンター	2,086,680	32	1.1	1,745,119	5	10.2
北九州	ひびきコールセンター	8,188,469	3	4.5	1,784,521	4	10.5

コールセンター流動図(石炭、平成21年)



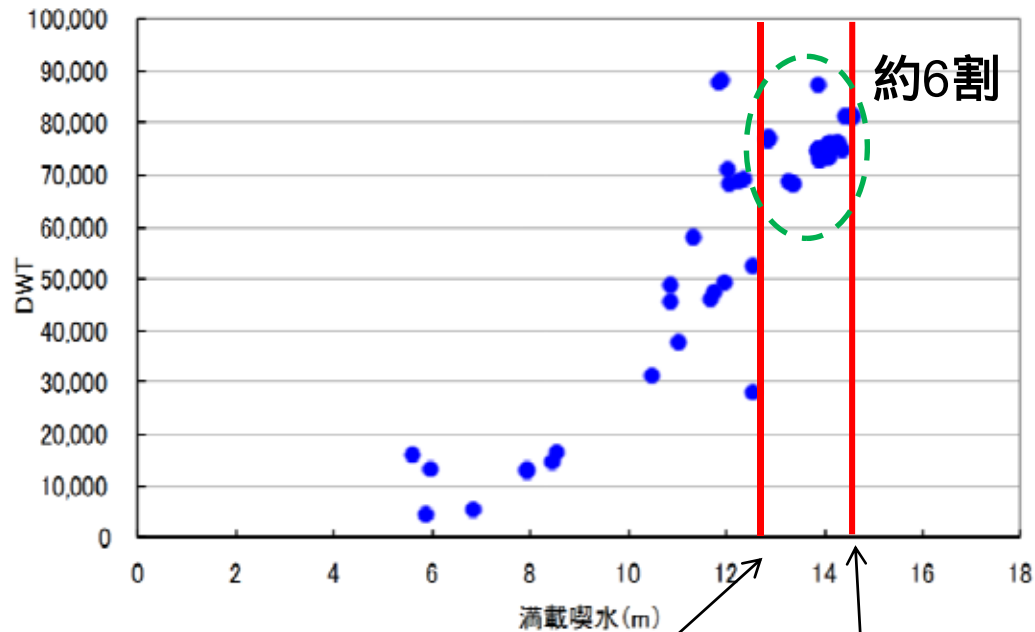
霞ヶ浦地区南ふ頭W22岸壁背後の石炭荷捌き地の利用状況



四日市港の石炭取扱いの隘路

- ・現在のW22を利用する船舶67隻(2008年度実績)のうち、41隻(全体の約6割)が喫水調整や潮待ちを行っている状況。
- ・今回計画においてW22の岸壁水深を-16mと変更することで、現在入港している船舶は、満載状態で常時入港することが可能となる。

W22岸壁に入港した船舶の
積載重量トン数と満載喫水の分布(2008年度)



-14m岸壁(既定計画)に入港可能な船舶の満載喫水:-12.7m

-16m岸壁(今回計画)に入港可能な船舶の満載喫水:-14.5m

	喫水調整あり	喫水調整なし	合計
潮待ちあり	3隻	31隻	34隻
潮待ちなし	7隻	26隻	33隻
合計	10隻	57隻	67隻



W22に入港する船舶が沖待ちしている状況

確認の視点

確認事項	国としての確認の視点
	基本方針
コンテナ貨物の取扱いの集約化	<p>今後の港湾の進むべき方向</p> <p>1 産業の国際競争力と国民生活を支える物流体系の構築 (1) 国際及び国内海上輸送網の基盤の強化 国際海上コンテナ輸送網の強化</p> <p>今後我が国の港湾においては、物流コストの削減等により、我が国における産業の国際競争力の強化と国民生活の質の向上を支える国際海上コンテナ輸送網を強化する。</p>
バルク貨物取扱機能の強化	<p>今後の港湾の進むべき方向</p> <p>1 産業の国際競争力と国民生活を支える物流体系の構築 (1) 国際及び国内海上輸送網の基盤の強化 バルク貨物等の輸送の強化</p> <p>臨海部や内陸部における企業立地、船舶の大型化等に適切に対応し、効率的で安全性・信頼性が高く、環境負荷の小さい輸送サービスを提供できるように、大水深の多目的国際ターミナルを整備するとともに、バルク貨物等の輸送、保管、荷さばき等に係る機能を強化する。</p>

港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針